

別に誰もみていないけど
休載をしますと書いた
九月のブログ
郡司和斗(茨城県)

ぽつんとした歌。それ以上でも以下でもないスプーンすりきり一杯の表現に巧さを感じる。平明な表現の中でこそ生まれるこの虚無感。歌の中に広がりを持たせないことが、ブログという開かれた世界の寂しさを浮き彫りにしている。

猫に間合いをはかられているとき
ずっと視界の隅にある月の暈
郡司和斗(茨城県)

画角がきれいに定まった素敵な歌。この収まりの良さは、「猫との間合い」その一步が仇となる独特な緊張感と動きの停止、「ずっと視界の隅にある」という言い回しから生まれるこの人間の視線の静止、その緊張感を支える定型詩の安定感からくるものだ。この全てが、一瞬のときめきを永遠にする力になっている。すごく良い歌。

たがいのこと
よく知らなかったから
私達は
あの時
楽しくなければならなかった
春町 美月(大阪府)

気心の知れた仲だから楽しい時間がある。気心の知れた仲だからこそ許される時間もある。知らないから楽しくなければならぬということは体験として分かるが、言葉にしたときのどことない暴力性に驚く。

中山俊一